

# 「銀の馬車道」

## ―その背景と魅力―

環境デザイナー 足立裕美子

近年、「銀の馬車道」という言葉をよく耳にするようになりました。

正式には「生野銀山寮馬車道」、あるいは「生野銀山道」とも呼ばれ、明治6年に着工、明治9年に完成した生野銀山から飾磨港まで約49kmに及ぶ当時の高速道路というべき馬車専用道路のことをいいます。この道は、明治新政府による生野銀山近代化事業の一環として、鉱石の採掘や選鉱、精錬技術の改良、機械化とともに、物資輸送の効率化と経費節減のために整備されたもので、生野から神河町、市川町を経て、福崎町辻川界隈を東西に横切ったあと西光寺野方面へと南下し、飾磨港に至ります。馬車道が北条街道沿いの大庄屋「三木家」前に建設されるとき、「三木家」が敷地を15mほど引き入れ、土塀や表門を作り変えたという話は有名です。

いま兵庫県中播磨管内では、地域を代表する近代化遺産としてこの「銀の馬車道」を再評価し、沿道の名所

や食を繋ぎ広域的な振興を図る取組みがなされようとしています。また、神戸新聞社は兵庫県と共催し、創刊110周年記念事業として昨年からは今年にかけて各県民局単位にシンポジウムを企画、中播磨地域においても昨年十二月、「地才地創シンポジウムin中播磨」夢と元気を乗せてはしれ 銀の馬車道！ふるさとへ」を開催しました。

ここでは、このシンポジウムでパネリストとして参加させていただいた内容を元に、「銀の馬車道」の魅力について紹介したいと思います。

### (1) 生野銀山の歴史と馬車道

生野銀山は、大同二年(807年)に銀鉱が発見され開坑されたと伝えられています。昨年は開坑1200年ということ、朝来市生野町では様々なイベントが施行されました。

しかし開坑に関する正式な文献は残ってはいません。一般的には室町年間(1542年)に、

生野城主、山名祐豊が本格的な銀の採掘を始めたと考えられています(古文書「銀山旧記」)。470年ほど前のことです。そして、天正六年(1578年)、織田信長が生野奉行を置き、以後、豊臣秀吉や、徳川家康も奉行や代官を置くなど、生野銀山は政権基盤を支える重要な資金源になっていました。三代将軍家光の頃には最盛期を向かえ、月産150貫(約562kg)の銀を産出したといわれます。

しかし、当時の鉱山は全て手堀で、通気や排水状態が困難になってくるとついに江戸時代の終わりには衰退して行きました。そこで明治政府になって近代化技術革新を図るために雇われたのがフランス人鉱山技師コワニエです。明治元年のことです。

コワニエはフランスでも有名な鉱山都市サン・テチエンヌの鉱山学校の出身者で、物資の輸送に必要な道路整備にも取り組みました。当時の日本では主な街道の道巾はほとんど一間(約1.8m)ほどしかなく、その上屈曲や凹凸が激しいなど、物品の輸送が不便で多額の費用を要し鉱業に不利なため、新たな道路整備が必要とされたのです。この馬車道建設の技術者としてあつたのが、コワニ

エ夫人の弟である技師シスレイです。明治五年のことです。

こうして「未だ、かつてあらざるなり」と鉱山長朝倉盛明氏が感嘆したと言われる素晴らしい道が完成しました。馬車道は、粗石、小石、玉砂利の順に敷き詰める当時のヨーロッパの最新技術工法(マカダム式)が用いられ、水田より約60cm高く、巾も平均三間(約5.4m)あります。明治の高官、駅通局長の前島密氏も、播但地方を視察した際に(明治10年頃)、「生野南方 道路 修築 甚美(ハナハダウツクシ)」と、この馬車道に感動して、詩を詠んでいるほどです。

また生野には、コワニエやシスレイだけでなく、医師オーギュスタン



異人館 向かって左が一番館(コワニエ邸)、右が二番館(ムーセ邸)

や、土質家レスカースほか鉱夫、煉瓦積職人など、多くのフランス人が移住しました。そしてそのための洋館（異人館）が一番館から五番館まで建設されました。残念ながら現在はその全てが取り壊され、生野には残存するものが一つもないのですが、もし残っていたとしたら、このまちの景観はまた違った匂いを放っていたことでしょう。唯一、神子畑に移設されたムーセ邸（二番館）のみが当時の面影を今に残しています。

しかし、こうした多くのフランス人が夫人を伴って滞在し、ここで異文化の交流がなされていたと思うと、明治初期の生野はなんともハイカラな浪漫あふれるまちだったのだろうと思いを馳せてしまいます。

## (2) 「銀の馬車道」ツアー

今から四年まえの平成二六年三月、姫路西ロータリークラブが創立35周年事業の一環として中播磨県民局の協力を得て、「銀の馬車道」を廻る自転車ツアーとバスツアーを企画されました。「銀の馬車道」ロゴをつけた特別列車も用意され、姫路駅から自転車積み込み生野駅まで直行、生野をしばし散策したあと、そこから自転車ツアーとバスツアーがス

タートするのです。図らずも中播磨県民局からの依頼でこのツアーの案内役を仰せつかることになり、神河町吉富あたりの現存する馬車道では実際にその足で確認していただき、福崎町では役場の協力を得て辻川界隈を散策していただき、そのほかバスの車窓からは沿線の歴史的ポイントを辿るなど、参加された方とともに飾磨目指して走りました。後日このイベントは新聞、テレビでも大きく取り上げられ、そのあと神戸新聞社は「銀の馬車道をゆく」というタイトルで、五月に9連載しました。

プロローグから始まり、生野町、当時の大河内町、神崎町、そして市川町、福崎町、当時の香寺町、姫路市と「銀の馬車道」沿い一市六町の紹介を各地の景観、特産とともに大きく取り上げました。「銀の馬車道」という言葉を頻繁に目にし始めたのはこの頃からです。

このツアーは、実際に参加された方のみならず、多くの人の心を捉えました。懐かしく、温かく、市川流域沿いの方たち全員の共有する財産として、「銀の馬車道」と言う言葉が地域に溶け込み、関連する商品開発が始まったのもこの頃からです。

## (3) 兵庫県ヘリテージマネージャーの取組み

「銀の馬車道」沿線は文化財の宝庫でもあります。私たちヘリテージマネージャーはこの沿線で様々な活動をしてきました。

ヘリテージマネージャーとは、地域に眠る歴史文化遺産を発見し、保存し、活用してまちづくりに活かす人材を言います。兵庫県教育委員会と（社）兵庫県建築士会が連携して、建築士を対象に、阪神淡路大震災の課題となった歴史的建造物等、地域に多量に存する歴史文化遺産の保全に期待すべく全国に先駆けて誕生したもので、現在、ヘリテージマネージャーは県下7地区に分かれて活動しています。

特に中・西播磨地区では、県下で唯一NPO法人化した組織「ひょうごヘリテージ機構ひめじ」を結成し、この馬車道沿線でも調査・発掘・提案など行なっています。

その一つに、中播磨県民局から委託を受け、戦前の古民家残存調査を管内約1500軒、平成一七年から一九年にかけて調査し、古民家の分布をまとめたものがあります。その中でも「銀の馬車道」沿線の古民家については、景観を形成する貴重な

要素となっており、①神河町栗賀・中村・福本地区、②市川町屋形地区、③福崎町辻川地区、④野里周辺地区、⑤飾磨街道地区の五地区を、特に今後の活用に向けた重点地区と設定しています。

また福崎町においても、「銀の馬車道」沿線にある文化財として貴重な、大庄屋「三木家」の町有化再活用計画にかかる予備調査業務や、「旧辻川郵便局」の国登録文化財申請のための調査等受託しています。これらは、生野から飾磨を繋ぐ「銀の馬車道」の中間点にあり、拠点としての存在を大きく問われるところですが、そのほか中播磨県民局の協力のもと、沿線にある古民家の再生・再活用のための相談窓口を、神河町馬車道沿いで行なわれた「まつせ祭り」の当日に開催しました。

兵庫県ヘリテージマネージャーは、馬車道沿線の歴史的景観を保全していくためにも、今後もこうした活動を続けていく予定です。

#### (4) 「銀の馬車道」沿線の魅力と地域の取組みについて

生野から飾磨へと走る「銀の馬車道」は、市川の流れに沿って山の景観から海の景観へ至る大景観です。通りには多くの店や町家が立ち並び、美しい町並みが形成されました。馬車道そのものも貴重な産業遺産ですが、沿線には景観上の魅力的なポイントが数多くあります。

生野から、市川を渡る盛明橋、神河町は越知谷川に架かる観音橋、その付近には「犬寺」と呼ばれる法楽寺、粟賀・中村の町並み、福本には徹心寺、福本藩陣屋跡、市川町には屋形の町並み、そして市川と合流する岡部川に架かる落合橋、福崎町に入ると辻川の町並み、旧辻川郵便局、大庄屋三木家、巖橋、西光寺野付近へ進み朝鮮人参役所跡岡庭酒造、大沢、太尾の集落、さらに南下して生野橋、馬車道修築の碑、そして野里城東小学校西側に馬車道修築の際半分埋め立てられた外壕、京口神屋町付近よりJR姫路駅を斜めに縦断して飾磨街道の町並み、亀山本徳寺を西に見ながら、飾磨津物揚場へ至るまで、実に49kmに及ぶ「銀の馬車道」は中播磨の景観や文化を繋ぐ道ともいえます。

兵庫県では、この「銀の馬車道」を播磨地域の南北の交流のシンボルとして掲げ、地域住民を交え、豊かな自然と歴史、文化を多くのの人に知ってもらおうという取り組みが始まっています。昨年八月から十一月に掛けては沿線の商工会が「銀の馬車道」リレーイベントを企画、各地で様々なイベントを開催しました。福崎町においても、十月二十七日に「銀の馬車道」ウォーク&もちむぎまつりが開催され、多くの方々が町内外から参加されました。

これら「銀の馬車道プロジェクト」を推進する母体として、商工会・商工会議所を始めとする各種団体、企業、行政などで構成された「銀の馬車道ネットワーク協議会」を結成し新たな商品開発も支援、すでに「銀の馬車道まんじゅう」、「銀の馬車道ずし」、「銀の馬車道マドレーヌ」、「銀の馬車道ラーメン」などがありました。平成十九年度には、梅酒（姫路市）、卵せんべい（姫路市）、ハンカチ（市川町）、ストラップ・土鈴（神河町）など8商品を開発支援対象商品として選定しました。この中に、福崎町の純米酒「鈴の露」も選定されています。

また、昨年、福崎町田原小学校百

周年事業として人情喜劇「銀の馬車道」が上演され、多くの人々に感動を与えたことは記憶に新しい出来事です。十月三十一日、田原小学校で二回上演されたあと、十二月六日「地才創シンポジウム in 中播磨」姫路キャスパホールにおいては、近隣市町から来られた多くの観客の前で、立派に舞台を成し遂げられ、好評のため追加公演までも挙行されました。

この公演は「銀の馬車道」における福崎町の位置づけを再確認させてくれただけでなく、演劇を通して地域を一つにする大切さを教えてくれました。

このように「銀の馬車道」は単に地域の歴史・文化の象徴だけでなく、ツーリズムの振興や多彩な交流の展開をめざし、地域の活性化の象徴として走り始めています。

「銀の馬車道」沿線に住まう私たち一人一人が、ふるさとへの誇りや愛着をもち様々な角度からまちづくりに参加することによって、地域の共有する財産「銀の馬車道」は今後も大きく育つていくことと思います。

